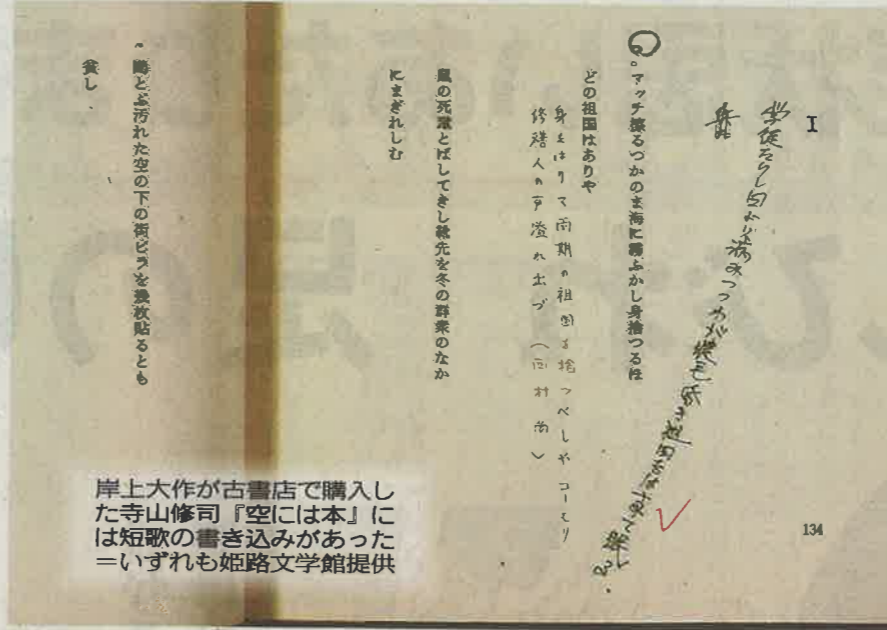


# 岸上大作が買い求めた寺山修司歌集

葉名尻竜一

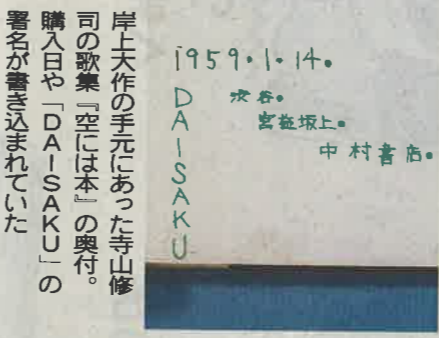
国学院大在学中の一九六〇年、安保闘争に身を投じた経験と恋を詠んだ「意志表示」で一躍注目を浴びた後、その年の十二月に自死した歌人・岸上大作（一九三九～六〇年）は、死後六十年を経た今も人気を集めている。岸上は寺山修司との確執が知られているが、その関係性をひもとく上で重要な資料を寺山研究で知られる立正大学の葉名尻竜一准教授が発見したという。どんな資料なのか。葉名尻准教授に寄稿してもらった。



岸上大作が古書店で購入した寺山修司『空には本』には短歌の書き込みがあった＝いずれも姫路文学館提供

一九五九年一月十四日(水)〇一時限受講、四時限受講。〇渋谷宮益坂上中村書店にて。『空には本』(寺山修司)四百円を二百円でも買う。岸上大作は日記にこのように記している。その岸上は実際に手にした『空には本』を目にするのができるかと思ってもよくなかった。

寺山修司の第一歌集『空には本』は一九五八年六月にのめ書房という小さな出版社から刊行された。岸上は翌年、発行部数の少なかった歌集を運ぶ古書店で買い求めたようだ。そして、好んで使っていた緑色のインクで奥付に「DAISAKU」と署名し、購入した日付と書店名を丁寧に書き添えていた。



## 影響を受けた代表歌に歌記す

当時、岸上は国学院大学の学生で短歌研究会に所属し、六〇年安保闘争の真っただ中に「恋と革命」に青春を賭けていた。古書目録に岸上旧蔵の歌集を見つけたときは「まさか?」と訝ったが、寺山修司の代表歌「マツチ擦るつかの間海に霧のかし身捨つるほどの祖国はありや」のページが写真で掲載され、歌の横に何やらメモ書きされているのが目に飛び込んできたときに「これは!」と胸躍らせた。岸上には寺山の代表歌に強く影響を受けた「意志表示せまり声なきこえを背にただ掌の中にマツチ擦るのみ」があったからだ。この一首を含む作品「意志表示」で『短歌研究』新人賞の推薦に選ばれている。『空には本』を取り寄せてみると、書き入れられたメモが歌だどわかった。

○生徒たりし日より病みつ  
つわが睫毛唇舌祖国をば  
さめて眠る  
○身をばりて雨期の祖国を  
捨つべしやこもり修繕  
人の声溢れ出づ(西村尚)

都倉俊一の文化庁長官就任に反対する。  
都倉個人の資質が問題なのではない。数多のヒット曲を世に送り出した彼は、文化全般に広い知識と深い見識を持っているのかもしれない。彼は文化庁長官にふさわしくない。そう私が考える理由は、彼がかつ

て日本音楽著作権協会(JASRAC)会長を務め、今も特別顧問であるからだ。なるほどJASRACは音楽家の地位向上と経済的安定に多大な貢献をしてきた。だが、その一方で著作権使用料の徴収によって、ジャズ喫茶やカラオケセンターなどを苦しめてきた。

「そのうち、風呂で鼻歌を歌っただけで力を取られるぞ」などといわれる始末だ。JASRACによつて、音楽を楽しむことは経済行為になってしまった。それは文化なのか? 二〇一八年、JASRACと音楽教室の間で起きた著作権使用料請求問題で、

文化庁長官はJASRACによる徴収を容認する裁定を行ったが、先日の判決でJASRACが一部逆転敗訴。今後、都倉新長官はどうするのかが注目される。金工作家でもある現在の宮田亮平長官は、あいちトリエンナーレの補助金を不交付にするなど最低最悪だった。次の長官にはもっとましな人材を期待していたのに。(ペッパー長官)

2021.3.25

## 人文学など意欲的研究に助成

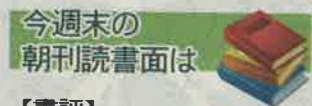
サントリー財団、利用者募集

人文学や社会科学分野の意欲的な研究を支援しようと、サントリー文化財団(大阪市)が2021年度の助成プログラム「学問の未来を拓く」の利用者を募集している。

複数の分野の研究者からなるグループ研究が対象で「従来の『研究』や『学問』を問い直す知的冒険に満ちた」試みを支援する。居住地や国籍、所属は問わないが、代表者は学際的な議論に参加できる日本語能力があることが条件。

財団は、地域の文化活動の継承や発展に資するグループ研究への助成の利用者も同時募集している。

いずれも助成額は1件50万～300万円で期間は1年間。選考委員会による審査の上、7月に対象者が決まる。希望者は、財団公式サイト内の研究助成ページの申請フォームを通じて申し込む。締め切りは4月8日。問い合わせは同財団＝電06・6342・6221。



- 【書評】  
■寺脇研、前川喜平、吉原毅著『この国の「公共」はどこへゆく』(花伝社)  
■平山亜佐子編著、山田参助絵・漫画『戦前尖端語辞典』(左右社)  
■大川史織編著『なぜ戦争をえがくのか 戦争を知らない表現者たちの歴史実践』(みずき書林)  
■小林哲夫著『平成・令和 学生たちの社会運動』(光文社新書)  
【書く人】  
『偶然の家族』(東京新聞)を刊行した作家の落合恵子さん  
※いずれも予定を変更することがあります

## 知の新書創刊



文化科学高等研究院出版局が新レベル「知の新書」を創刊した。同社は「ハードで難解な書」を刊行してきたが「近代知・大学知とは別の入口を開く必要がある」と新書刊行を決断。「本格的な考察、自己技術を磨き上げるための導入への通道である」と宣言している。創刊では「日本国際高等学術

会議」理事長の山本哲士さん著「魅えれ 資本経済の力」|| 写真、京都大名菅教授の松下和夫さん「気候危機とコロナ禍」など四冊を同時発売。今後毎月一冊以上を刊行する予定という。

